

4.3. まわりを見わたす -ls コマンド-

ls は指定したディレクトリの内容を見るためのコマンドです。ディレクトリを指定しなかった場合は、カレントディレクトリの内容を表示します。

ls の書式は以下のようになっています。

```
ls □ [オプション] □ [ファイル もしくは ディレクトリ] ... (□は半角スペース)
```

オプションとは、コマンドに副次的な影響を与えるためのもので、コマンドごとに違いがあります。よく使うオプションは各々覚えていく必要があります。ls でよく使うオプションは以下のものです。

- l 詳細表示をします
- a 隠しファイルを表示します
- h ファイルサイズを把握しやすい単位に変換します

単純に ls を使った場合には、ファイル名の先頭がピリオド (“.”) を付けたファイル及びディレクトリは表示されません。これらのファイル及びディレクトリは、アプリケーション等が設定の記録に使用するため、うかつに利用者が操作するのを防ぐためです。このようなピリオドつきのファイルをドットファイル（または隠しファイル）と呼びます。同様にドットディレクトリという表現もできますが、こちらは常用されていません。

“-l” オプションを使用した場合には、1 行 1 ファイルとなり、以下のような表示になります。では実際に打ってみましょう、ここでは架空のファイルの表示を表しています。

```
-rwxr-xr-- 1 root root 3456 12月 26 11:31 sample.txt
(1)      (2)  (3) (4)   (5)      (6)      (7)
```

これら 8 つのタイプにはそれぞれ意味があります。

- (1) ファイルタイプとアクセス権限を示しています。1 文字目はファイルタイプであり、通常ファイル (-)、ディレクトリ (d) 等があります。次の 9 文字（この場合 rwxr-xr--）がアクセス権限を示し、3 文字で一まとめとなります。一まとめとなっている 3 文字はそれぞれ読み込み権限 (r)、書き込み権限 (w)、実行権限 (x) の有無を示します。権限がある場合は各文字 (r,w,x) が、権限がない場合には (-) が表記されます。
- ☐ rwx はじめの 3 文字は所有者の権限です。全て可能であるとされています。
 - ☐ r-x 次の 3 文字は所属グループの権限です。「読み込み」と「書き込み」が可能とされています。
 - ☐ r-- 最後の 3 文字はいずれにも該当しない利用者に対する権限です。「読み込み」

のみ可能となっています。

(2) ハードリンク数という値です。通常 1 ですが、「ハードリンク」という行為を行うと増えます。ディレクトリの場合にはディレクトリ内のファイルまたはディレクトリ数の合計になっています。

(3) 所有者 (ユーザ名)

(4) 所属グループ (グループ名)

(5) サイズ (バイト数)

(6) 最終更新日

(7) ファイル名

のようになっています。